

Q4

もし夜間や休日に救急外来を受診したい場合は、どこを受診したらいいのですか？


A 多くの場合、各自治体で救急案内を行なっています。いざという時のためにあらかじめお住まいの自治体の救急案内の電話番号を確認しておき、夜間や休日などに受診を希望される場合は、そちらに電話してどこの病院が受診可能かを聞いてください。

月～土：19:30～23:00
 岐阜小児夜間急病センター
 (岐阜市民病院内) 058-251-1101

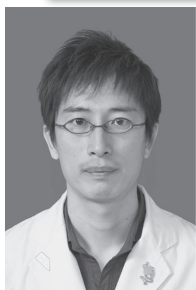
休日：岐阜市休日診療所 058-253-7711

★それ以外の時間帯は下記センターで受け入れ可能施設をご紹介します
 岐阜地域救急医療情報センター 058-262-3799

★子供の急な病気に困ったら
 小児救急電話相談(岐阜県総合医療センター内)
 058-240-4199



今月のドクター



岐阜市民病院 小児科兼救急部副部長

篠田 邦大氏

(しのだくにひろ)
平成6年岐阜大学医学部卒業。平成10年より現職。小児血液腫瘍が専門。小児救急医学会にも所属。

インフルエンザが流行する時期です。ご用心を。

Q3

では実際に、どういうときに救急にかかった方がいいのですか？

A 体温計の数字ばかりでなく、お子さんの雰囲気や状態をよくみて判断して下さい。受診された時にご家族が「熱とかはあまりないですが、なんとなく様子がおかしいんです」などと言われた時に予想以上に重症なことがあります。逆に「熱は高いですが元気です」と言われた場合は、ほとんどが家で一晚様子を見ることが可能な状況です。いつも一緒に暮らしているご家族の印象は、非常に信頼できるものなのです。熱の高さよりも、ぐったりしていないか、顔色が悪くないか、息苦しそうではないか等の全体の雰囲気をみてあげましょう。具体的には、けいれんした、顔色が悪い、ぐったりしている、おしっこがでていない、繰り返し吐いている、激しい頭痛・腹痛・胸痛、苦しそうな咳や呼吸、ひどい血便、生後3か月までの赤ちゃんで38度以上の熱がでた時等は、受診をお勧めします。



今回は、小児救急外来で多い家族からの質問や、小児の救急外来のかかり方等について、専門医に答えていただきます。

『生後5ヶ月と3歳の子供がいます。どんな時なら、夜間や休日でも病院にかかったほうがいいのか、教えてください』

Q2

今日かかりつけの先生に診てもらったのですが、座薬を入れても熱がさがりません。もう一度救急外来を受診したほうがいいですか？

A 症状や状態に変化がなければ一晚様子を見ても良いと思います。小児には比較的弱い解熱剤を使用するのが一般的で、これらは副作用が少ない分効果も弱いため、平熱にまでさがらず、数時間で再び高熱に戻る場合がしばしばあります。強い座薬はインフルエンザ等の場合に使用すると脳症を誘発する可能性があります。小児での使用は原則禁止されています。人間の体は熱を出してウイルスや細菌と戦っています。熱は決して悪者ではないのです。

Q1

こんなに熱が高くて馬鹿になりませんか？

A なりません。最も小児科外来で多い質問ですが、これはいわゆる迷信です。確かに髄膜炎や脳炎等の中枢神経系の感染症では、神経学的後遺症を残す可能性はありますが、それら以外の疾患(突発性発疹症、扁桃腺炎、肺炎等)では40度を超えるような高熱がでて、それ自体では神経学的後遺症を残す心配はありません。

D、からのアドバイス
 こんなどき
 どうしたら...

